

平成24年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク  
《 事例発表 》

■事例発表

講 師：NPO法人元気王国 理事長 佐藤香奈子

テーマ：酒田におけるにぎわいの創出



みなさん、こんにちは。今ご紹介いただきましたが、酒田で元気王国という、健康づくりを目的としたNPO法人の代表をしております佐藤香奈子と申します。今日は、私たちが酒田で行っている活動についてお話しさせていただきます。

まず、私たちがどんな活動をしているかという映像がありますので、そちらをご覧ください。では、私の方で補足説明をさせていただきます。

私たちは平成18年に法人化、平成19年に酒田の中心商店街である中町商店街にスタジオを設け活動しております。中心商店街といっても、日本各地で同じような悩みを抱えているかと思いますが、空き店舗が増えてきています。私どもは健康づくりを通して商店街、中心市街の活性化に貢献したいと考え、中町に居を構えました。当時、空き店舗対策という形で、酒田市さん、山形県さんから非常に大きな支援をいただいています。開設してから、今年で5年目となりました。日中、高齢者の方が15、6名、多いときで20人近く集まり、いろいろな体操をしております。一挙に20人、講座によっては30人ほどの人数を中心商店街に集められます。その人たちが中心商店街で買い物などをしてくれれば微力でも地域経済に役立てるかと考え、中町にスタジオを設けました。

ですが、スタジオをつくってすぐに大問題が発生しました。当時、利用者用の駐車場がまったくありませんでした。市役所が近いので、市役所に止めていただくようご案内をしていたものの、問題は冬です。酒田は雪と風が非常に強い地域ですので、市役所からスタジオまで歩くのも一苦

労。一時は駐車場がないことで、1年で終わりかと覚悟もしたんですが、酒田市さんから特別便宜を図っていただいたとっておりますが、商店街地下駐車場を2時間無料で使わせていただくことになりました。私たちだけでなく、商店街の利用者全体への便宜ではありますが。ご支援もあって、なんとか1年目の冬を乗り切りまして、今に至っております。今も私たちは商店街駐車場のヘビーユーザーです。非常に助けられております。

音が出ないので、映像はここで終了して、パワーポイントを用いてプレゼン形式で私たちの活動内容を説明いたします。

下の写真に写っているのは、私の子どもたちです。幼い頃からお母さんの都合に合わせてせられ、カヤックに乗せたり、連日山に連れていったりしています。

前述しましたが、私たちは健康づくりのサポートをメインの活動としています。ただ、そこからいろいろと派生し、例えばスポーツを行える環境を整えるために芝生の整備もしています。自然体験活動事業にも昨年度から力を入れています。また、総合型地域スポーツクラブの認定を受け、昨年から TOTO の助成を受けながらスポーツの普及活動も行っております。元気王国のホームページもありますし、Facebook に「佐藤香奈子」で登録しております。友達申請をしていただければ必ず承認いたしますので、つながりを持てれば幸いです。

現在の私たちの事業は、町中で行う事業と、アウトドアフィールドで行う事業の二つに分かれています。スタジオ内でヨガやシニアストレッチも行いますが、商店街にはアーケードが設置されているという特徴があります。そこで、商店街を全天候型1周600mのウォーキングコースととらえて、アーケードを利用したウォーキング教室も行っています。また、商店街には中央公園という公園がございます。昨年からそこにテントを張っての1泊アウトドア体験を始めました。この企画も、初めは市の職員さんや商店街のみなさんから目的を理解してもらえませんでした。ですが一度やってみると、子どもたちが商店街で楽しく遊ぶ姿がみられるということで、商店街の方からの受けが良かった。ということで、今年の冬も開催しました。この写真は子どもたちがうどんづくりをしているところです。その後雪遊びをして、アイスをつくるなどのレクリエーションをしました。狙いとしては、アウトドアフィールドでなくとも、中心商店街でアウトドアができることをアピールすることです。この写真をご覧ください、本当に町の公園にテントを張りました。元気王国スタジオの風除室に仮設かまどを作り、炭でピザを焼いて、「商店街ピザ」と名付けて商店街のみなさんにも振る舞いました。交流会を実施し、八百屋さんからは「来年スイカ出してあげるからね」という言葉をいただいたり、お茶屋さんからは抹茶の点て方を教わるなどしながら一泊しました。実は私自身中町育ちですから、中町という地区に非常な思い入れがあります。今の子どもたちにも、中町に遊びにいこうという思いをもってもらいたい、ひいてはそれが町のにぎわいにつながるのではないか。そのような思いを持って今年も開催します。

次は今年11月4日に開催される、第1回シティーハーフマラソン in 酒田についてお話しさせていただきます。昨年まで、私ども NPO 法人元気王国で、メロンピック酒田砂丘マラソン大会を7月に開催しておりました。完走すると酒田の砂丘メロンがもらえるということで、とても人気のある大会でした。ですが、ここ数年7月の気温が急上昇しているという怖い面もありました。35度を超えるなかでマラソン大会を行うことが果たして健康にいいのかどうか、自問自答を繰り返しました。また、走るコースが市街地から離れていて、なかなか市民の目に触れない。マラソン参加者は楽しくとも、それ以外の人に周知できないというジレンマを抱えていました。酒田市では、酒田市主催の茂木ハーフマラソンというマラソン大会も毎年開催されています。このハ

ーフマラソンもコースは市街地ではないという悩みがありました。そこで、二つの大会を合わせ、協力して市街地を走る、華やかなマラソン大会を1つ開催しようという運びになりました。子どもたちがこのマラソン大会に出たいと思えるような大会にしようと考え、今、準備を進めています。今、スクリーンにコース案が映っていますが、酒田市が誇る歴史と文化、景観を感じ取れるようなコース設定をしています。北港のリサイクルポートの辺りまで行き周辺を折り返しますの、風車や鳥海山といった酒田ならではの風景を走りながら楽しんでいただけます。

私たちの活動のもう1つの柱であるアウトドア活動です。これも、当初は私が好きで始めた事業でした。酒田から沖合40kmに、飛島という離島があります。そこに、シーカヤックで渡るイベントを毎年開催し、今年で14回目となりました。これはまったくの手弁当で、仲間同士でやっている事業です。ポスターを貼ることもなく、市の広報で募集することはありませんが、40kmのロングツーリングに安全に参加できるイベントが日本全体でも数少なくなってきました。以前は、シーカヤックマラソンなどを各自治体の町おこしとして開催していた時期もあったものの、だんだんと消えていってしまいました。そういった状況もあり、全国的に私たちの事業の認知度が上がってきています。今年は約30艇、40名の参加申し込みがありました。しかし、今年はおし風があまりに強く、シーカヤックでの横断は断念せざるを得ませんでした。定期船飛島丸に荷物と船をすべて積んでいただき、飛島に渡りました。この写真は朝6時に撮影したんですが、すでに宴会していますこの人は千葉から参加、この人は茨城から。

飛島では、ボランティアの友達が食事をつくって待っていてくれます。今年はミートソーススパゲッティでした。彼は横浜からわざわざこのボランティアをするために来てくれました。飛島の海は非常に透明度が高く、ロングツーリングだけでなく、ほかの海遊びの場としても日本有数のすばらしいスポットです。これはうちの子どもたちですが、クルージングに同行させていただきました。親としては、小さい頃から海に親しめば、大人になっても海に親しめると考えて、毎年一緒に連れていっています。

もう一つ大きなイベントが、鳥海山を満喫しようというイベント、「SEA TO SUMMIT」です。酒田市の隣の遊佐町が主な会場となり、今年はいよいよ開催されます。海から鳥海山の頂上を目指すというイベントです。吹浦港でカヤックを漕ぎ、地上に上がってまずは21km自転車で走り、最後は足で登山をして、鳥海山の山頂を目指します。これは単に早さや競争が目的のイベントではありません。前日に開催される環境シンポジウムで環鳥海の自然の豊かさを認識し、その豊かさを実際に体感するためのイベントです。アウトドアメーカーとしては日本最大の株式会社モンベルさんとの共催事業です。今日は鳥取県境港からお越しになっている方がいると聞いていますが、最初にこの「SEA TO SUMMIT」が開催されたのは鳥取県大山でした。鳥海山は3番目に設営された会場です。今年はいよいよ9月8日、9日に開催されます。7月30日まで参加申し込み受け付けておりますので、ここにいらっしゃる方で、出たい方がいらっしゃれば、今日私に一言お声がけください。これは昨年の様子です。最後に行われた抽選会ではシーカヤックが当選した方もいらっしゃいました。

町中ではなく酒田市周辺の鳥海山麓でアウトドアがしたい、でもシートゥーサミットはハードルが高いという方々向けに、毎年アウトドアスクールを開校しています。みなさんのお手元にチラシがございます。去年も開催しましたが、100名募集したところ120、130名の申し込みがありました。アウトドアクッキングがメインの教室です。このイベントの狙いは、庄内の自然に親しんで欲しいということもありますが、子どもたちが自分で炭で火をおこすことができる

ようになってもらい、災害時も最低限自分が生きていくことができます。一人では解決できない場面になった時、自主的に周りチームをつくり、協力し合いながら解決することができます。男女関係なく包丁が使えるようになります。生きていくための力が育ちます。私たちも子どもたちの成長を目の当たりにしています。私の子どもたちも、修学旅行や林間学校があると全部自分で荷物を用意できます。それが当たり前だった私たちの時代と、今の子どもたちの置かれている状況は違います。アウトドア体験を通して生きる力を身につけてもらいたい、それが私たちの一番の願いです。

今、私たちが活動するなかで「連携」は重要な要素です。交流するだけではなく、本当の意味での連携、お互いの不足する部分を補い合い、長所を伸ばし合い、そして一つの目的に向かって進んでいくということが、どれだけ大事なことかということを実感しております。特に「SEA TO SUMMIT」は県境をまたぐ事業です。秋田県にかほ市、由利本荘市の方々ともやり取りをして進めます。このスライド、県境と市境という言葉に「？」とつけました。例えば山形県酒田市に住んでいれば、山形県と秋田県の境や、酒田市と遊佐町の境を意識します。しかし、よそから来た人は、実際に地面に線が引かれているわけでもありませんし、全くく気にすることはありません。もっと外部から見た視点を大切にして、枠にとらわれず、多くのところと「連携」しながらもっともっと楽しい活動を行っていければと思います。

最後になりますが、ひとつ展望をお話しさせていただきます。先日、酒田の港湾区域内の規模を教えてくださいました。すると、防波堤内で約8kmあるんだそうです。防波堤に囲まれている湾内なので、波の影響を受ける心配はありません。安全な海が8kmもあるというのはすごいことだと思います。往復すれば約15kmです。ということで、本港地区からリサイクルポートまで往復すれば、コース全長15kmの日本一安全なシーカヤックレースがここでできる！ と思ひました。ぜひ実施したいと熊坂所長に伺いましたら、「実現できる方法を探してみましよう」というお言葉をいただきました。港に100艇くらいカヤックを浮かべたら、絶対におもしろい光景になるというシンプルな期待が根底にあります。ですが、シーカヤックが好きな人はたいていアウトドアが好きな人ですので、レースに参加した後、飛島や鳥海山、月山に足を運んでくれるかもしれません。庄内の自然を、住んでいる私たちはもちろん外から来た人も楽しめる。海と生活をもっと近くしたい。そのような思いを持ちまして、このイベントはいつの日かきっと開催したいと考えています。

つたない話ばかり、早口となつてしまい、申し訳ありません。